

文久四年一月三日より文久四年一月八日まで

P8311071 right

宅調、鍛次郎来る金蔵と改名申付る、泊宿式此の如し

四日午 陰漸薄

出 殿、五郎次年賀品携へ来りし旨、山本(長)、須崎(常)名代、正覚、寺山(佐)、女兒を携へ

清水(鎌)何れも

年賀品持参、清水の分一杯を勧む、尤清水へは薫には謝を兼、下げ緒一懸けを贈る

五日未 陰漸に薄入本烈風

宅調、永持年賀に来る、富沢(大)、伊藤伯母、町田(耕)三男某供に 並宿岡(定)何れも小品

持参、藤山

年賀に来る、酒肴蕎麴等を設け、町田某は肩衣(かたぎぬ)宿岡(定)には革下げ緒を遣す、富沢(大)

身分の儀に付

周助鶏卵一笥を為持要、藤小繕用扱方迄頼入れ遣す、定次郎請状いたす

六日申 晴風烈

榊原(鍊)年賀に来り面す、榎(本)寿)同行来り、志願筋申来る、出 殿、明七日四時被為、召し

御切紙

P8311071 left

河内守殿□阿弥を以、且渡し、黄窪より良造年賀に来る、七種の囃子あり

蕎麴福茶を設く

七日酉 陰漸晴

七種の粥を炊く、定次郎本日より来り仕ふ、早メ出 殿、官位御礼申上太刀目録献上周河備

三閤老の謁なり、元日献上太刀目録 並本日分とも清甫へ托し御納戸へ納め、且同人へ本日

頼み銀一方遣す、岩次郎菓折少許持参年賀に来りし旨、木村両娘枝柿一折辻と煎餅一折を

携へ年賀に来る夫々移り品遣し従婢へも小品遣せし旨、右に付、松井(騏)娘を招く、是また

菓一折を

持参酬ふるに羊糕を以てす、何れも午飯を□し旨、箱館平山(謙)より、九月十六日付の書状に

鮭

二隻添届く永持へも同品(書添)さし越す趣に有し処、書状□いも相届き不申

八日戌 晴

宅調、横瀬筑後守方へ官金納方の義に付問合に遣す、初て釵(つるぎ)を試む

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解説未了の文字です。私の実力ではすぐ解説できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。